



《学校教育目標》

「育成を目指す資質能力」

- やり通す「粘り強さ」
- 協力する「協働する力」
- 前進する「創造する力」

啓北中四本柱

- ・挨拶励行
- ・環境美化
- ・私語撲滅
- ・時間厳守



苫小牧市立啓北中学校 学校通信 令和8年2月27日発行

啓北中「6つの行動指針」 すべての教育活動を この考えのもと推進していきます。

- 01 **学ぼう** (子どもも教師も学ぼう)
- 02 **育てよう** (未来を生き抜く子どもに必要な資質・能力を育てよう)
- 03 **楽しもう** (子どもも教師も楽しもう)
- 04 **聞こう** (意見や悩み事など、子どもの声に耳を傾けよう)
- 05 **寄り添おう** (相手の立場になって考えよう)
- 06 **つながろう** (子ども同士をつなぐとともに、地域に、社会につなげよう)

体罰といじめ

漫画「ドラえもん」を見たことがない人はいないのではないのでしょうか。昭和のドラえもんには、宿題を忘れたのび太を先生がゲンコツするシーンがよく流れていたものです。のび太ママやジャイアン母ちゃんもゲンコツしてましたよね。生徒の皆さんはわからないかもしれませんが、ほとんどの啓北中の保護者の方は、先生のゲンコツをはじめ、のび太が廊下に立たされている…ジャイアンののび太に対する暴力や暴言（「お前のモノは俺のモノ、俺のモノは俺のモノ」なんていう有名な言葉もありましたね）、スネ夫の悪だくみ…そして、最後には、出木杉君やしずかちゃん、ドラえもんが助けてくれるシーンを見たことがあるのではないのでしょうか。これらのことって・・・明らかに、体罰といじめですよ。いつからか、このようなシーンを見るのがなくなりましたね。調べてみると、1994年に日本が「児童の権利に関する条約」に批准したときからだそうです。(COPILLOT より)

<体罰について>

ある日本の研究ではこんなことが言われています。「学校や家庭で体罰を受けた子供は、いじめっ子にもなったり、いじめられっ子にもなったりする」

体罰を受けた子供は、力による解決の志向を助長させることになったり（ジャイアン）、我慢することに慣れて嫌な思いをしてもやり過ごしてしまったり（のび太）・・・と、いじめの加害者にも被害者にもなりやすいという結果が出ているそうです。納得できますよね。

学校における「体罰」は法律で許されないこととして明記されておりますし、それ以前に子どもの気持ちに寄り添った指導とは到底言えず、絶対に許されない行為です。たまに「愛のムチ論」を掲げる人がいますが、どんなに子どもへの愛情があったとしても許されません。これは、学校と家庭双方、いや、子供にかかわる全ての大人に許されていない行為です。今年度の12月に、体罰調査が実施されました。本校では、体罰という区分ではありませんが、**不適切な指導という区分**（子供の気持ちに寄り添っていない言葉など）で、保護者の皆様から **2件** ご連絡をお受けいたしました。また、学校の対応等により不信感を抱かれ、ご連絡をお受けしたケースもありました。深くお詫び申し上げます。こうした保護者の皆様からのお言葉を真摯に受け止め、子供の人権について深く考えを巡らせて教育の質を一層高めてまいります。

<いじめについて>

現代型のいじめは、クラス全体で一人の子をいじめることがあります。ドラえもんに登場する出木杉君のようなタイプもいじめのターゲットになり得ますから、被害者の味方は出にくくなります。

子供は、いじめられると、その集団だけではなく世界中からいじめられていると感じます。こうなってしまうと、いじめ被害者は、いじめっ子をやっつける発想ではなく、自分自身がダメな人間だと感じてしまったり（自己肯定感の低下）、自分は誰からも必要とされていない人間だと思ったり（自己有用感の低下）します。どれだけ、いじめという行為が一人の人間を苦しめるかは明らかだと思えます。

我々啓北中は、教職員の指導はもとより、生徒会の取組により「いじめを許さない風土」をつくりあげていきます。啓北中には、出木杉君やしずかちゃんのようなしっかりものの生徒がたくさんいます。もちろん、そのようなタイプだけでは学校という集団はおもしろくありませんから、いろんな人がいていいんです。ジャイアンのようなボスの存在がいてもいいです。スネ夫のような策士がいた方がおもしろい。ただ、**映画**ドラえもんのように、そんな個性豊かな一人一人が力を合わせて団結する、共に成長する集団でありたいと思っています。

1月に調査したいじめの件数は18件です。

この一つ一つの案件を重く受け止め、きめ細やかな指導・対応を心がけるとともに、保護者の皆様のご家庭での教育と合わせて、子供たちにとって安心・安全な学校をつくっていきたくと思っています。

こうしたことを考えていると、学校づくりで大切にしたいのは「一人一人の個性を大切にする啓北中」という経営の理念です。生徒、保護者、地域の方、そして教職員が個性を大切にしようことができれば、安心・安全で楽しい学校になるとと思っています。

この思いを中核に据えた「令和8年度 啓北中学校学校経営方針（案）」の一部をご紹介します。

I 学校経営の理念

生徒・保護者・地域住民・教職員 「一人一人の個性を大切にする」学校であること

人は、人とのかかわりの中でその個性を輝かせる。

個性は決して一人では輝くことはできない。いろいろな人がいて初めて、その個性の価値が高まるものである。保護者、地域住民、教職員、そして生徒がかかわり合う中で、一人一人の個性を輝かせたいという願いのもと、学校経営を推進していく。

地域住民は「土」、生徒は「芽」、保護者は「太陽」、教職員は「水」、そして、校長は「風」である。私は、学校にかかわるすべての人にとって心地よい風となるよう努力し続ける。

II 学校経営の基本的な考え方

「人を生かす組織をつくる」

啓北中学校は、生徒の個性を生かす学級・学年経営をする。

啓北中学校は、教職員のやりがいを高め、職能を生かす・伸ばす組織運営をする。

「人とのかかわりの中で、人づくりをする」

啓北中学校は、人とのかかわりの中で生徒の資質・能力を育てる。

啓北中学校は、生徒・教職員・地域の方とのかかわりの中で成長する。